

復興スローガンにおける方言の使用と意識

魏ふく子／石山理恵（東北大学大学院生）

目的

- ① 復興スローガンにおける方言の用いられ方を調査
- ② 方言復興スローガンに対する被災者・支援者の意識を考察
- ③ (①と②を踏まえ) 被災者・支援者による方言復興スローガン作成時の方言研究者の役割を提言

①看板・短冊の復興スローガンにおける方言と共通語

A. 看板、ポスター、のぼりなど

●分類の一例



使用語形：共通語形
指向地域：日本全体・東北

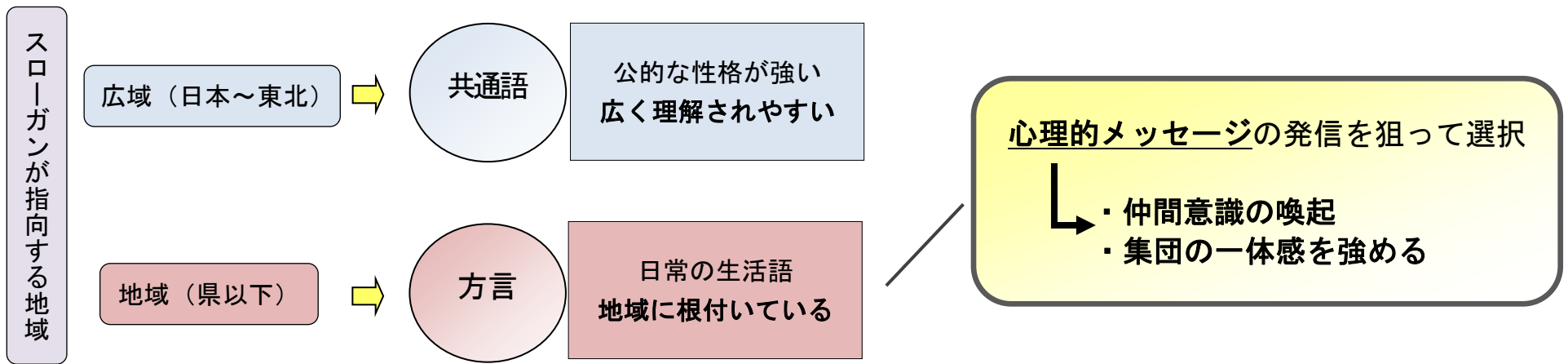


使用語形：方言形
指向地域：県

●スローガンに共起する地域名の分布

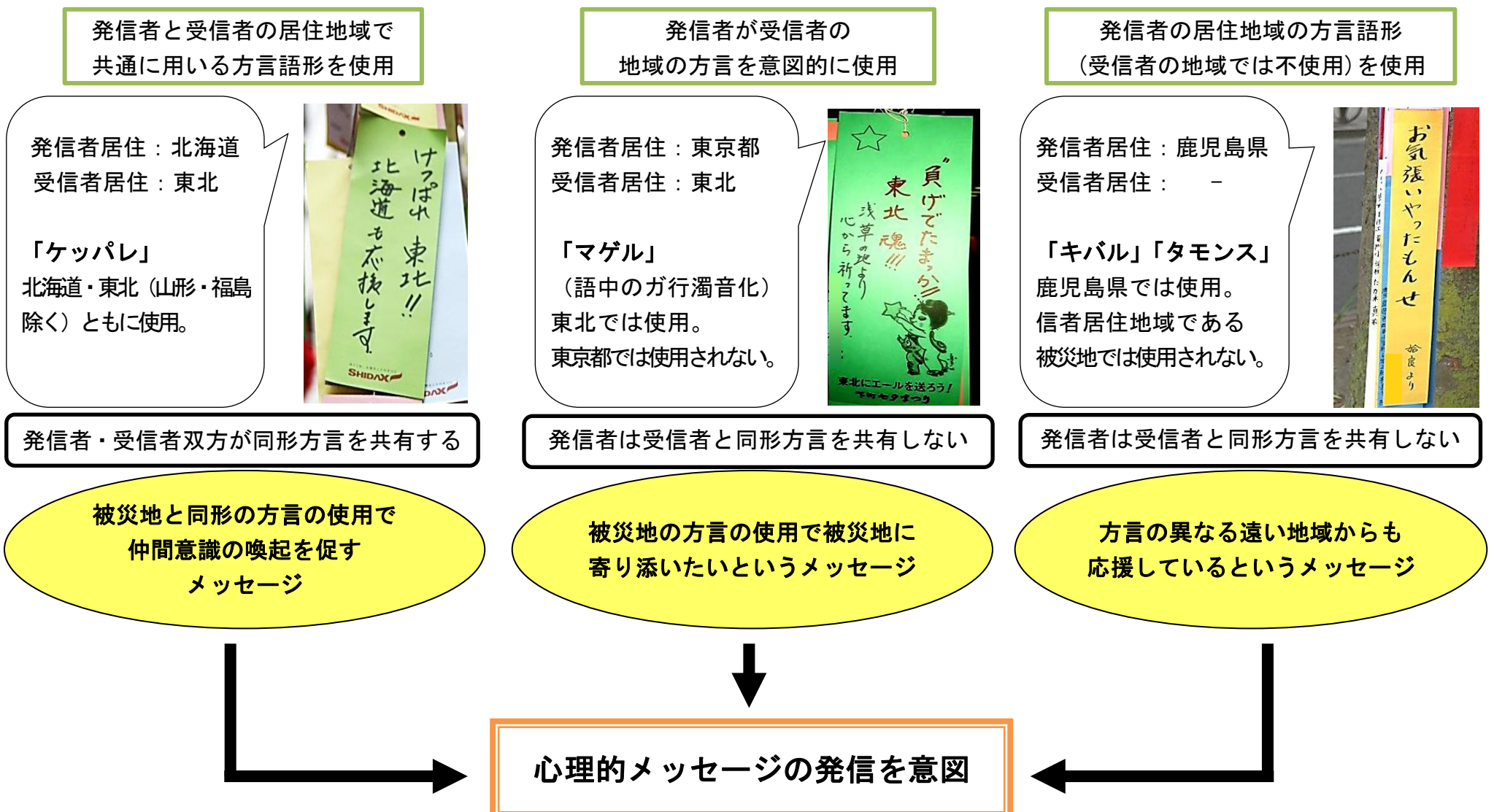
	日本全体	東日本	東北	県	詳しい地名	地名なし	合計
共通語	8	2	28	15	15	3	71
方言	0	0	1	7	8	0	16
合計	8	2	29	22	23	3	87

●スローガンの向けられる地域と選択される語形の傾向



B. 短冊

●発信者・受信者の居住地域による方言復興スローガンの種類

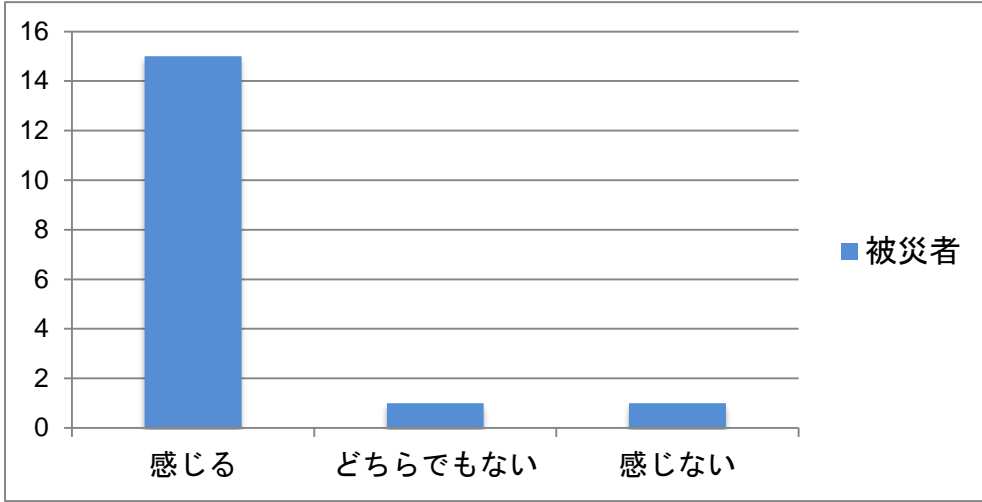


②方言復興スローガンに対する人々の意識

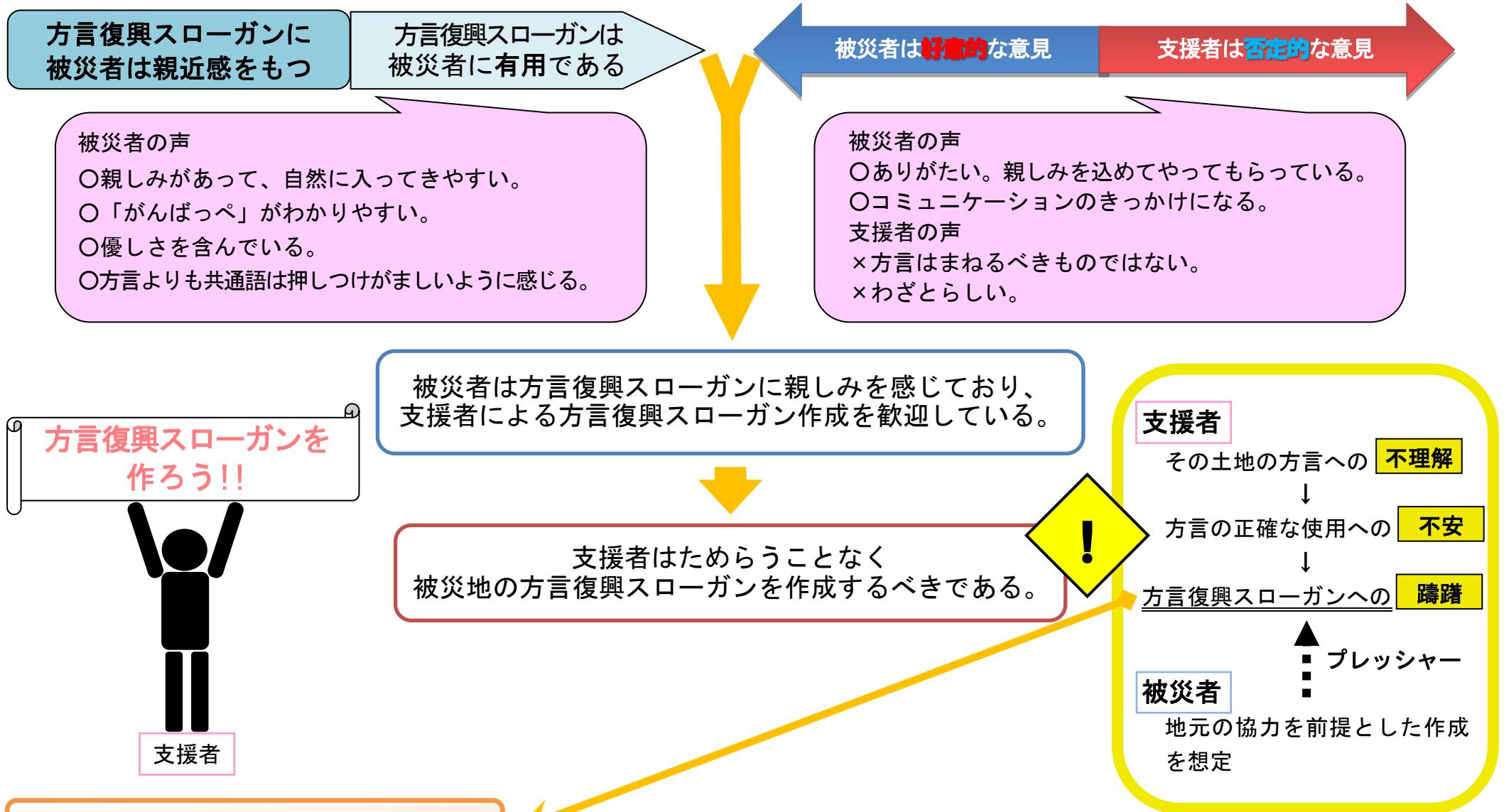
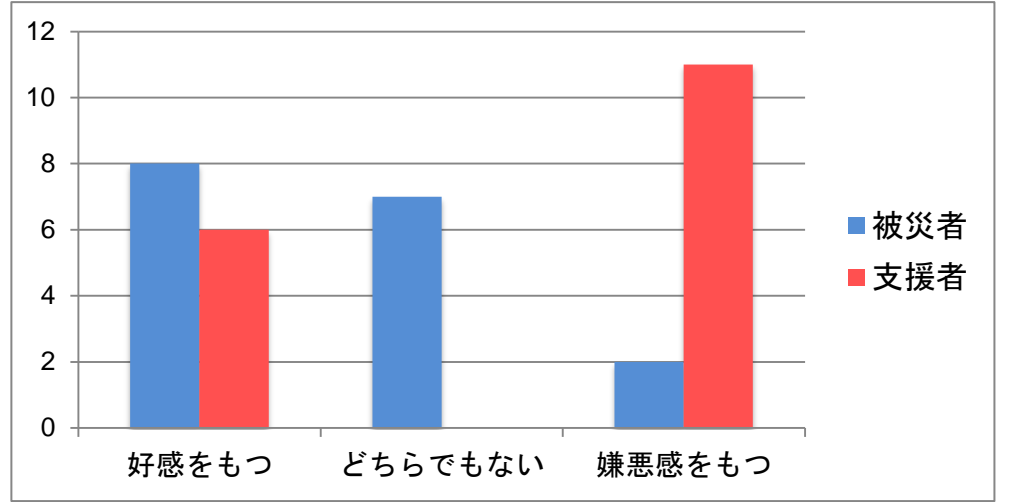
●アンケート調査

・宮城県気仙沼市で被災者と支援者 各 17 人に方言復興スローガンについてのアンケート調査を行った。

Q. 共通語のもの比べ、方言復興スローガンへ親近感を感じるか。
(被災者回答)



Q. 被災地以外の方が被災地の方言復興スローガンを作成すると、被災者はどう思うか。



③提言—方言研究者はどう関わるか—

